

4月中旬、地元旅行会社が企画した旅に知人グループの一員として参加する。普段話せなかつた話も、気軽にできる楽しさも旅の魅力でもある。大型バス力もある。

# フリーは風 (現場)からの風

の安全運行のため、出発は大町早朝6時で松本駅前や塙尻駅前でも参加者を乗車させ、梓川サービスエリアで運転手交代、途中の休憩時間も厳守する徹底ぶり。安全等確保の為、基準が益々厳格されて

昼食は、名物・佐野ラーメンと地元のニラ一杯のジャンボ餃子、ジャガイモを串刺したイモフライ。ご当地グルメの内容だ。しかし、参加者の食事風景を観察していくと、同メニューでの企画は、嗜好重視の個人顧客の団体ツアーリー離れを連想させる。

る。「250疊の大蔵書を移植するプロジェクトが展開され、日本で初めての成功例として全国から注目を集めた場所でもある。興味が湧き、売店で日本の女性樹木医第一号で園長から平成27年まで園長

自然の營みが多くの人達に感動を与える大切さを知る

説がある中、太さ一辺を越える騰移設の困難な取り組み。

域の財産にできるのだと  
知る事ができた。  
今年は、開花が遅れ  
ていたが、海外の訪問  
客から「さくら色藤」  
として人気の「うすべ  
に藤」は見頃で、写真  
スポットで大混雑。ク  
ルメツツジ・大シャク

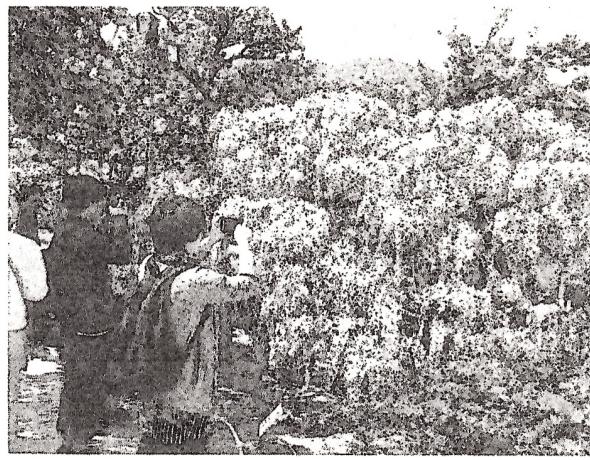
ラワー・パークは都市開発で現在の場所に、移設オーブンした施設だ。もともと湿地帯だった跡が感じられる所も多く、開園の為の苦労は並々ならぬ取り組みだと伝わっていく

を務めた塚本こなみ  
さんの著書「おねがい  
ひとつの大作戦」の絵  
本を購入する。移植に  
携わった経験、有名な  
植物学者でさえ、根本  
の太さが直径60センチ  
以上は無理とされた学

自体に感動を覚えてしまった。創設者の早川和俊さんは、大藤の移植成功を自らの目で確かめた後、93歳で天寿をまとう。自身の生涯にわたる自然の命に対する丹精の賜物が、地

ナゲ・八重桜も咲き乱れ、時の過ぎるのを忘れるほどだった。花木の下には、青色のネモフィラやルピナス、黄色系の花が色彩をさえて植栽され調和の見事さに、園内見学をより

楽しい時間にさせた。  
訪れる者に植栽や風景  
をどの様に見せるか、  
知恵や工夫が大切だと  
知った旅でもあった。  
(NPO法人信州地域  
社会フォーラム理事・  
白馬村森上)



花は見る人を感動させ、最新情報機器で全世界に発信させるのが海外からのお客様で大混雑に